

地区別活動計画作成例(多面にわたる機能の維持・発揮)

市全体計画における区分	地区別活動計画の内容		現状(R1)	目標(R6)
農産物の供給の促進	特産品の開発	地場産農産物の加工・販売を促進するため山菜やミョウガの加工品を新たに3品目開発し、地域の特産品として市街地等で販売する。	0品目	3品目 150袋販売
農産物等の販売拡大	直売所等への出荷	地場産農産物や加工品の販売により、庭先集荷・市街地等での販売額を増加させる。	100万円/年	170万円/年
良好な景観の形成	自然環境の保全・保護	苗の移植や施肥を行い「アジサイロード」の維持管理を行い、毎年「アジサイまつり」でライトアップを行う。	アジサイまつり開催	アジサイまつり開催
伝統文化の継承	伝統文化の継承	正善寺地区の伝統文化(獅子天狗舞、おおかみ送り)の普及啓発活動を継続する。	伝統文化の普及啓発	伝統文化の普及啓発
農産物等の販売拡大	販売の拡大	インターネット販売の推進のため、ホームページを開発する。	—	ホームページ開設
農産物等の販売拡大	販売の拡大	ネーミング・パッケージを検討・作成し、中山間地米のブランド販売を開始する。	—	中山間地米のブランド販売
農産物等の販売拡大	特産物の販売	どぶろくの販売場所を増やし、加工品の製造販売を推進する。	1か所で販売	2か所で販売
農産物等の販売拡大	販売の拡大	新たに出荷する品種の検討と試験栽培を実施し、園芸作物出荷種類の増加と販売額の拡大を図る。	出荷3品種 売上150万円	出荷5品目 売上200万円以上
農産物等の販売拡大	販売の拡大	インターネット販売の推進のため、ホームページを開発する。	—	ホームページ開設
農産物等の販売拡大	販売の拡大	インターネット販売の推進のため、ホームページを開発する。	—	(R2)ホームページ開設
農産物等の販売拡大	販売の拡大	ネーミング、パッケージの検討・作成を行い、中山間地米のブランド販売を開始する。	—	インターネットで販売
農産物等の販売拡大	販売の拡大	ウド、わらび、そば等のJA・青空市場等直売所における販売額を増やす。		直売所販売額 5万円/年
農産物等の販売拡大	販売の拡大	棚田のきらめきの休憩所内で野菜等を直売する。	販売なし	販売額20万円/年
農産物の供給の促進	特産物の販売	オリジナルパッケージやチラシを作成し、販売を促進することにより、地域で生産したそばを原料にした委託加工による乾麺そばの販売数量を維持する。	販売数量2,500把	販売数量2,501把
自然環境の保全・活用による良好な景観の形成	自然環境の保全活用	棚田花畑の管理、棚田公園の管理活動を継続して実施する。	花畑植付け1回、草刈2回、公園雪囲い2回、草刈3回	花畑植付け1回、草刈2回、公園雪囲い2回、草刈4回
棚田を観光資源とした地域振興	その他	既存の展望広場を棚田テラスとして整備する。実施に際し、町内の意見を取りまとめ県・市と協議して事業目的達成を目指す。(県営中山間地域総合整備事業)	—	インターロッキング敷き東屋設置約300㎡
農産物の供給の促進	特産物の販売	横山人参と干し柿の地元飲食店への利用促進を図り、生産を拡大する。	横山人参280㎡ 干し柿1,000個	横山人参420㎡ 干し柿1,200個
農産物等の販売拡大	特産物の販売	地元の酒蔵と連携し、原料米の生産と地元ブランドの酒造りに取り組む。	地元ブランドのPR	地元ブランドのPR
農産物の供給の促進	特産物の販売	加工品の製造販売を推進するため、水稲から大豆等への作物転換により、味噌等の農産加工品の原料自給率を高める。	川谷産大豆面積14a 大豆120kg(60kgを加工)	川谷産大豆面積50a 大豆400kg 味噌1.6t
自然環境の保全・活用による良好な景観の形成	自然環境の保全活動	里山の保全を図るため、棚田周辺の森林整備と薪の生産により薪販売量を令和6年度までに6㎡まで増産する。	薪の販売量2.8㎡	薪の販売量6㎡
農産物等の販売拡大	販売の拡大	すでに取り組んでいる高齢者農家支援として、農作物の庭先集荷と直売所への出荷を継続して支援する。	(H30)221回 (R1)238回	230回
農産物等の販売拡大	販売の拡大	棚田米販路開拓のための学習会を年1回開催し、中山間地米のブランド販売を実施する。	学習会1回/年	学習会1回/年
自然環境の保全・活用による良好な景観の形成	自然環境の保全活動	里山の保全のため、山菜保護の看板を作成・設置する。	看板作成設置0枚	看板作成設置10枚
自然環境の保全・活用による良好な景観の形成	自然環境の保全活動	永田農法米栽培面積を拡大し、環境保全型農業を推進する。	作付面積6.0ha	作付面積6.6ha
農産物等の販売拡大	販売の拡大	新たな米袋を共同作成し、中山間地米をブランド販売する。(パッケージのリニューアル作成)	—	新デザインの米袋で販売
農産物の供給の促進	特産物の販売	地元産品を使用した新たな加工品を開発・販売する。	数品	新規加工品の販売
棚田を観光資源とした地域振興	自然環境の保全活動	星のふるさと館との共催イベントを年1回開催する。	—	1回/年
農産物等の販売拡大	販売の拡大	委託販売所を増やすことにより、現在独自の米袋を制作してブランド化に取組み独自販売している中山間地米のブランド販売額を増やす。	委託販売所1軒	委託販売所2軒
農産物等の販売拡大	販売の拡大	営農組織の設立に向けた協議と同時に、地域で採れた米のブランド化も協議する。	—	営農組織の事業計画に位置付ける
農産物の供給の促進	特産物の販売	荒廃農地に作付けたウドを素材にした特産品の開発を行う。	—	専門家の招聘・アドバイスを受ける
自然環境の保全・活用による良好な景観の形成	自然環境の保全活用	地区内全ての農業用水の源となるブナの森の自然観察会・学習会を毎年開催し、水源涵養の大切さを多くの市民から認識してもらう。	不定期開催	1回/年
伝統文化の継承	伝統文化の継承	お盆の時期に毎年開催している不動地区ふるさと夏まつりを継続して毎年開催し、交流人口拡大の機会とする。	1回/年	1回/年